

大阪公立大学 森之宮キャンパス



大阪城公園の緑とつながり
様々な場と活動を育む
まちのシンボルとなる “知の森”



大阪城高石垣より望む西側外観

計画概要

敷地面積：19,317.79m²

建築面積：10,478.73m²

延床面積：79,262.96m²

構造種別：鉄骨造

階 数：地上 13 階

建物高さ：59.82m



大阪城東部地区のまちづくりコンセプト

大学とともに成長するイノベーション・フィールド・シティ

夢洲～森之宮を結ぶ大阪の新たな東西都市軸上の東の拠点となる

大阪城東部地区のファーストプロジェクト



出展：大阪府ホームページ

計画の特徴

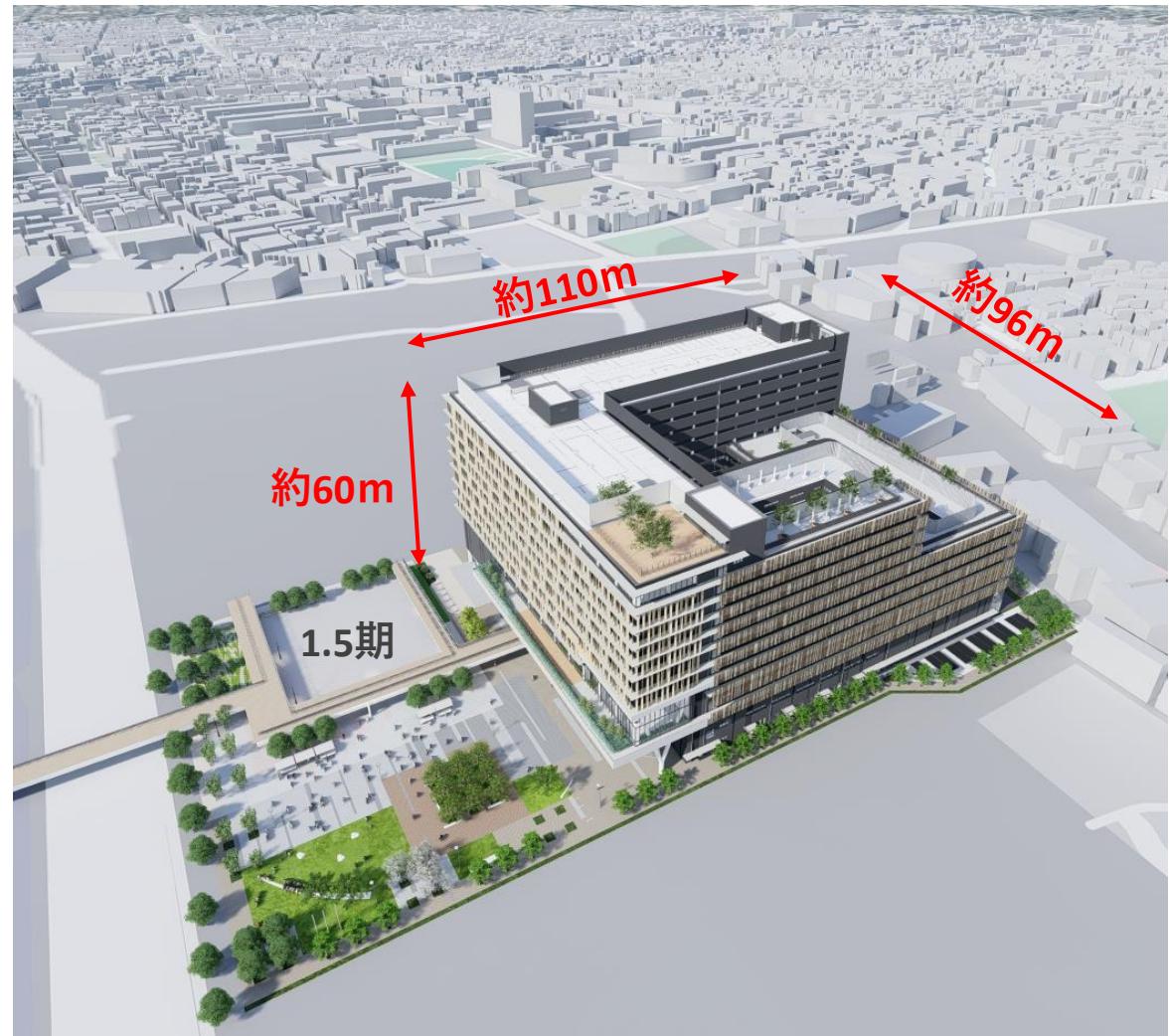
地域に開かれた広場をもつ
門のない開放的なキャンパス

中庭を中心とした口の字型平面の
都市型高密度キャンパス

1.5期へ 大阪城公園駅方面へ
地域とともに成長するキャンパス

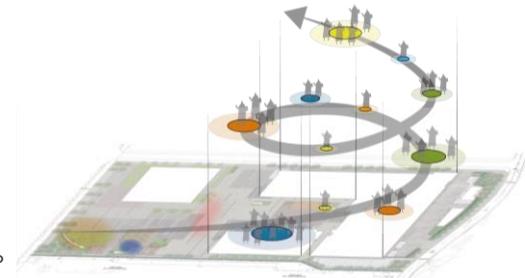


配置図

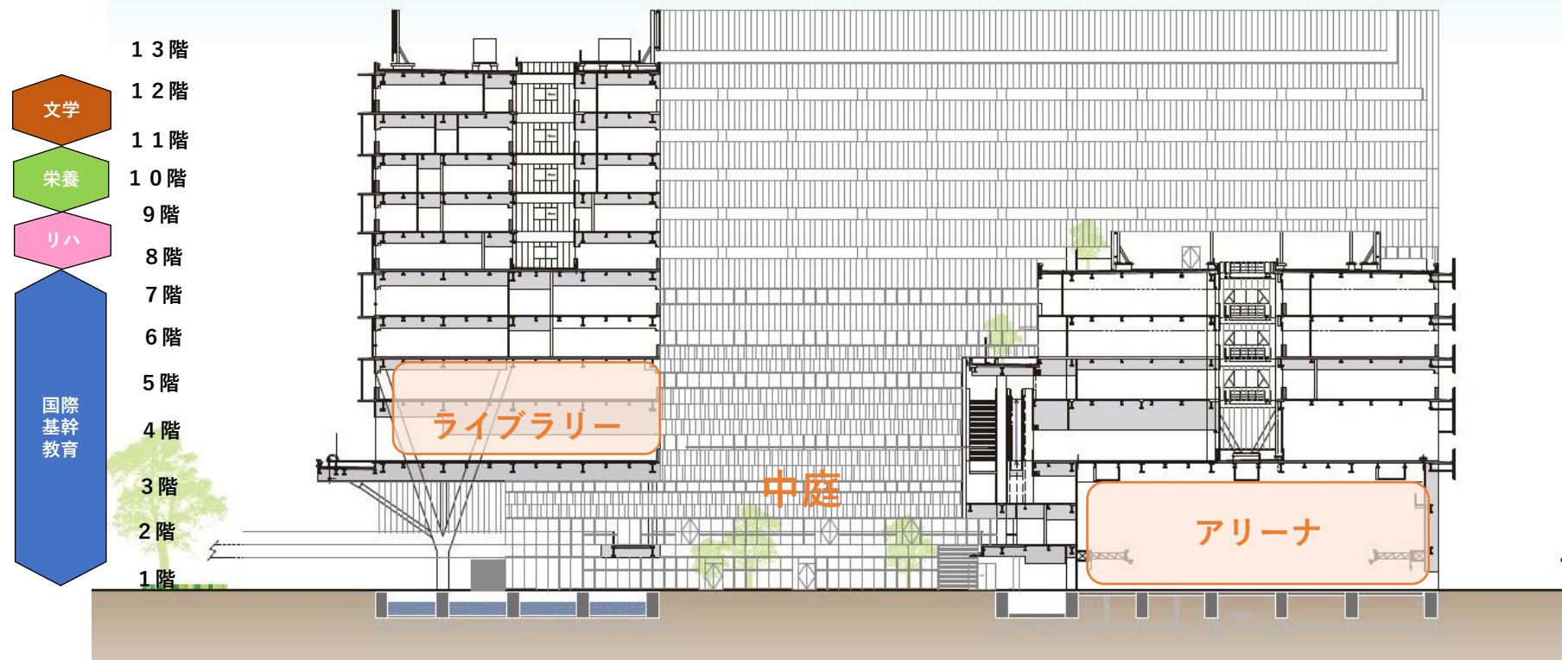
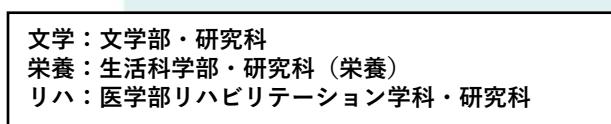


建物構成

- ・1、2階に賑わい施設を配置し、**中庭を中心とした賑わいの核**をつくる。
- ・3～7階の**国際基幹教育部門**を配置する。
- ・8～13階の高層部に**専門教育フロア**を配置する。
- ・学生の移動の多い国際基幹教育フロア（1～7階まで）は大きな縦動線**「スパイラルボイド」**でつなぐ。
- ・水害ハザードマップを配慮し、**主要な機械室、受水槽、電気室、防災センター等**は2階以上に配置する。



中庭を中心にスパイラル状に展開する活動



南西側外観

コモレビスクリーンとエコスキンにより覆われたアースカラーのファサード



エントランスピロティ

象徴的な樹形柱で学生を迎える屋根のある外部空間
軒天には大阪府産木材を採用



中庭

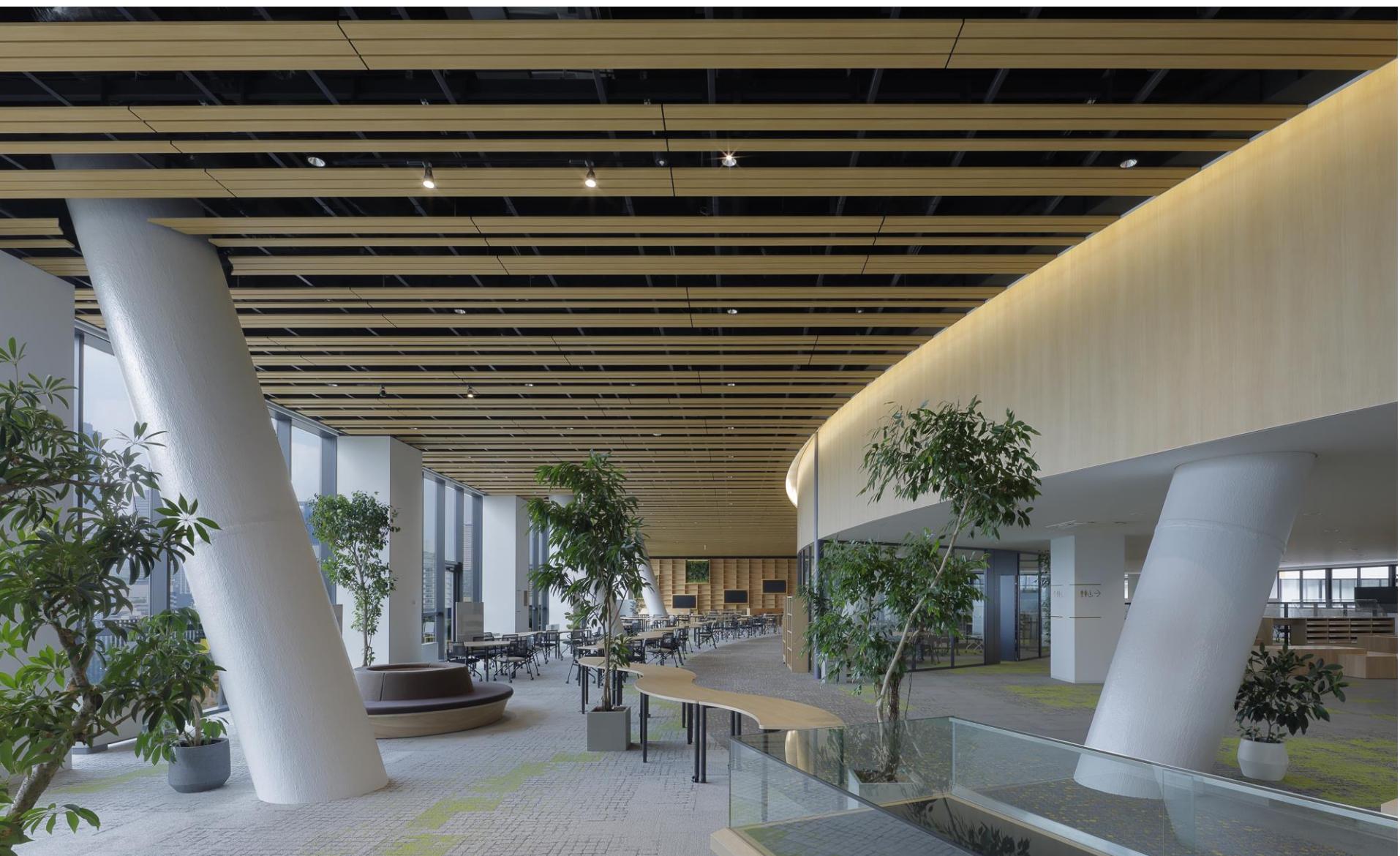
施設のメイン動線『スパイラルボイド』が中庭を取り囲む

地区施設である 2 階デッキはイベント時にはステージの様子を眺める観覧席として機能する



4Fライブラリー

4, 5階には地域の方も利用できるライブラリー



4Fライブラリー

産官学連携の拠点となるスペース



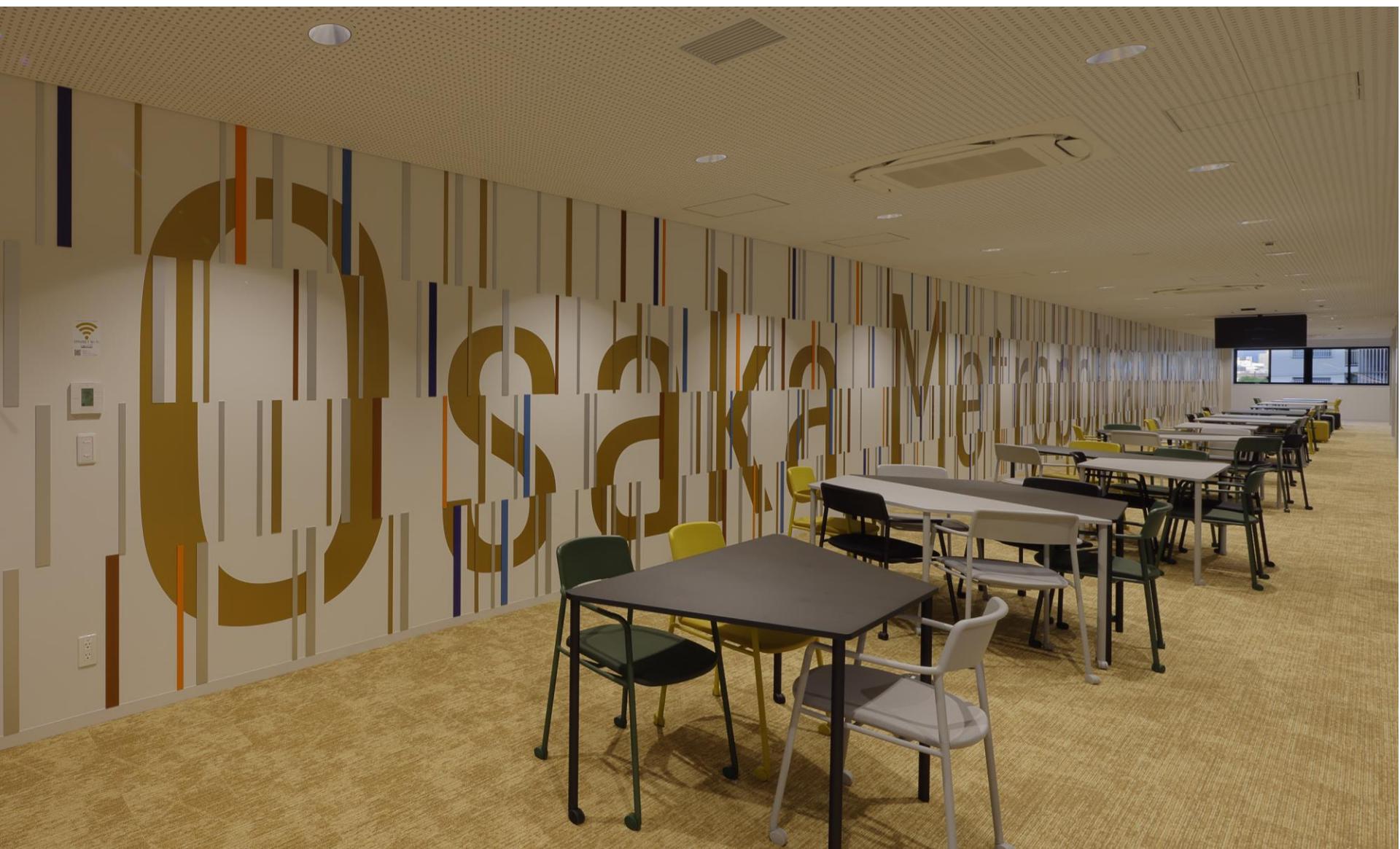
12Fスカイラウンジ

大阪城公園を望む特等席



ラウンジスペース

サインやグラフィックにはゴールドを採用



多様な居場所

建物内外に学生・教職員・地域住民が利用可能なオープンスペースを多数配置
周囲の風景とつながり、多様なひとが憩うスペースが地域に開かれたキャンパスを体現する



多様な居場所

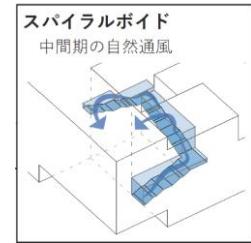
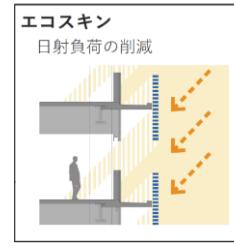
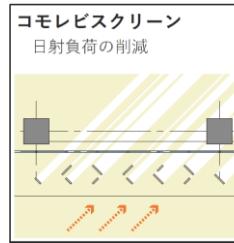
建物内外に学生・教職員・地域住民が利用可能なオープンスペースを多数配置
周囲の風景とつながり、多様なひとが憩うスペースが地域に開かれたキャンパスを体現する



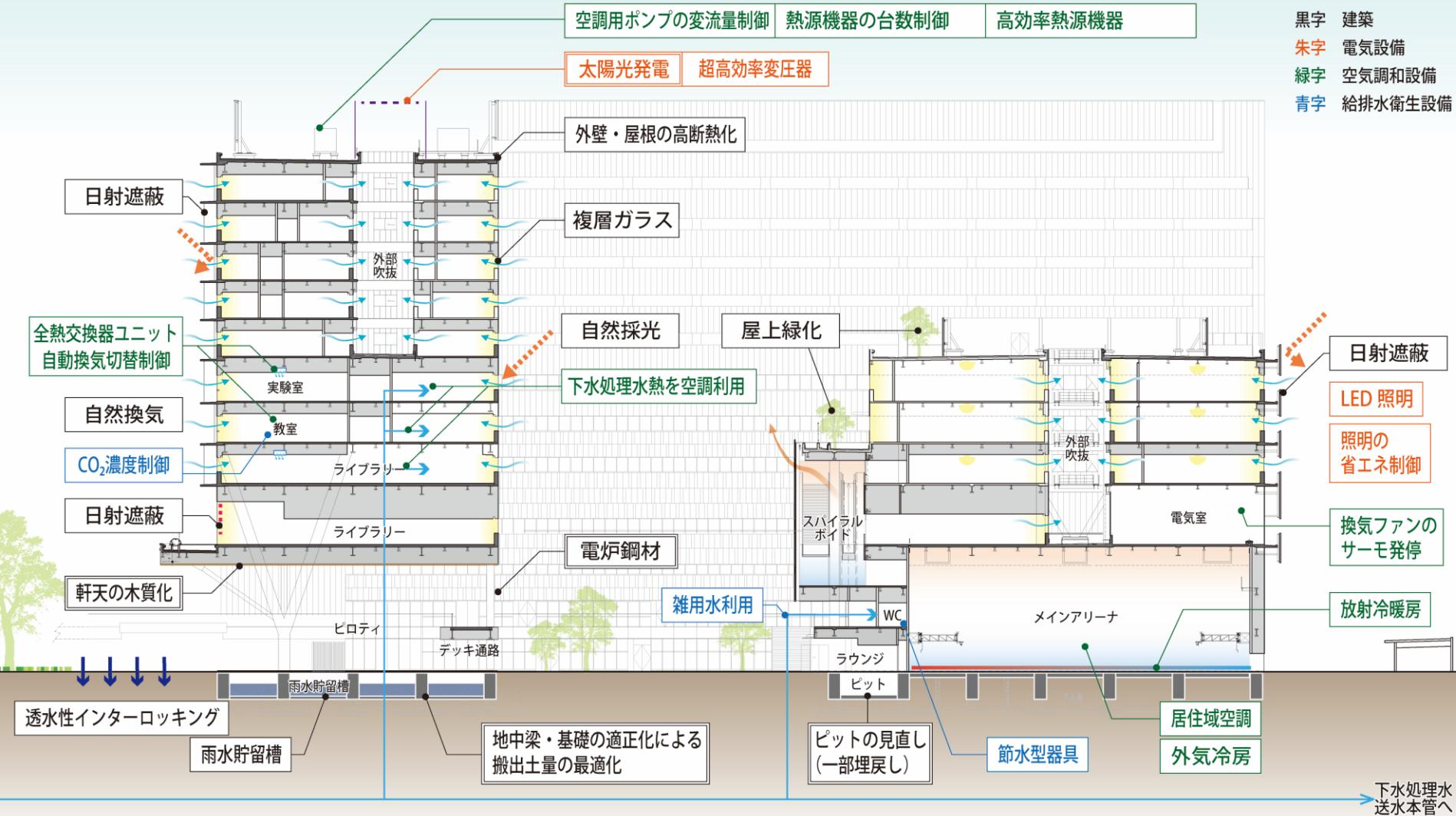
環境配慮

外壁断熱性能を確保し、庇・日射遮蔽ルーバーによって
内部への日射熱負荷を低減

空調は各室用途に適した空調・換気方式を採用
地域未利用エネルギーも活用し効率的な空調設備を計画している



黒字 建築
朱字 電気設備
緑字 空気調和設備
青字 給排水衛生設備



コモレビスクリーン

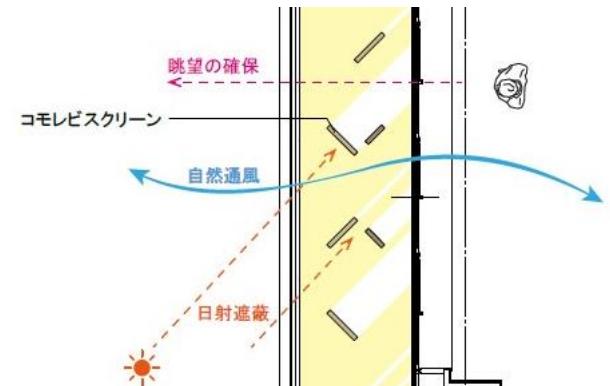
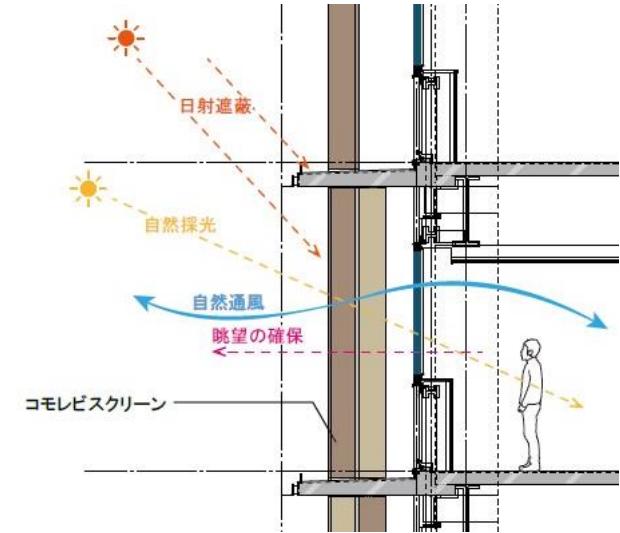
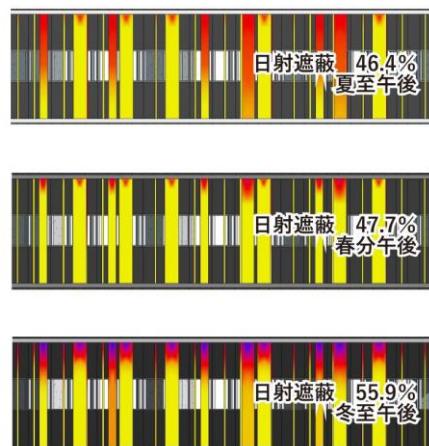
ECPパネルを前後2列に奥行きをもたせたランダム配置にすることで
日射の遮蔽と大阪城への眺望の確保を両立しつつ動きのある外観を実現



西側外観



西側内観



バルコニー周り断面・平面 日射遮蔽 47.7%

空調システム

大学施設の使い方・特徴に合ったシステムを導入

教室・ライブラリ：人員変動が大きい

→ 換気量を制御し、外気負荷を低減

実験室・教員居室：負荷傾向・使用時間が様々

→ 個別に運転管理が行える
空調・換気システム

アリーナ：大空間 → 床放射冷暖房システム

施設の使用時間帯は主に平日の日中

→ 空調・換気・照明の消し忘れ防止
のため、スケジュール運転

計画地独自のエネルギー

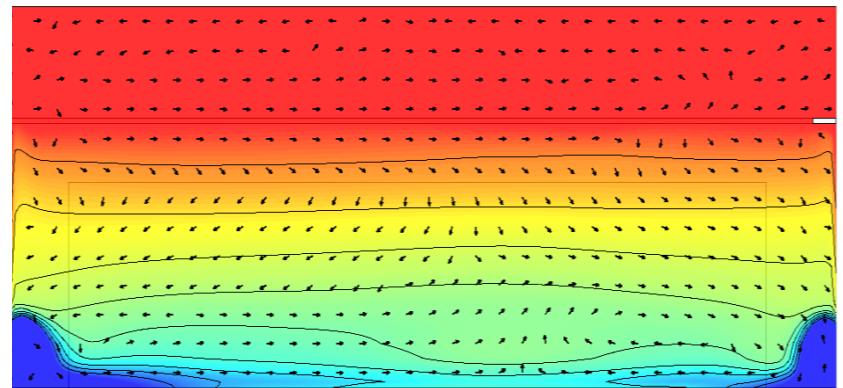
未利用エネルギーである下水処理水熱を導入

運用面での更なる省エネへ

設備統合ネットワークによる各種設備の一元管理
BEMSによるエネルギーの見える化



メインアリーナ内観



冷房時の環境シミュレーションによる温度分布（断面）

計画地独自の取組み

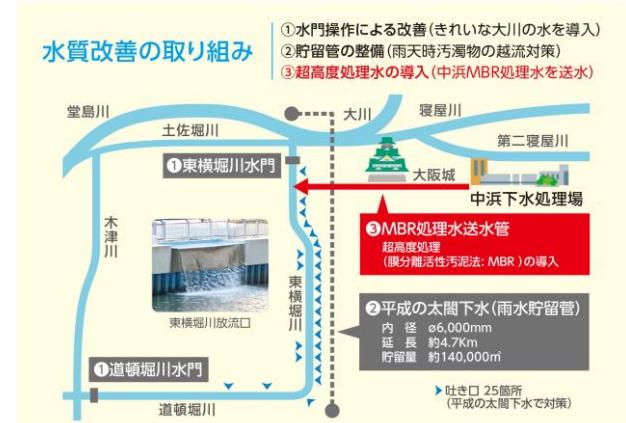
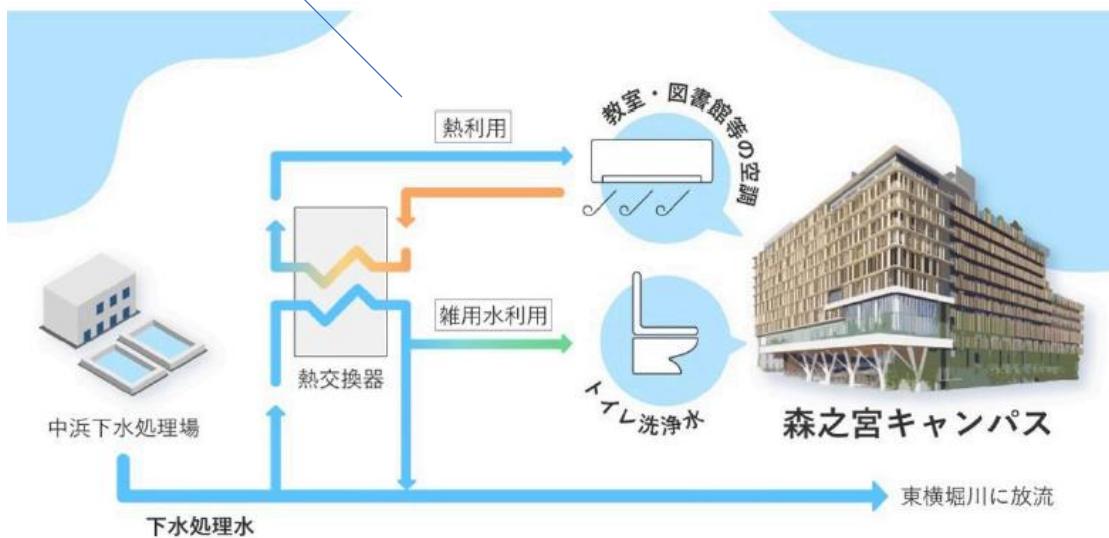
下水処理水を森之宮キャンパスの空調・雑用水に再利用

隣接する中浜下水処理場で超高度処理された下水処理水を
「空調の熱源」「雑用水の水源」に再利用し、二酸化炭素排出量を削減。ヒートアイランド抑制にも寄与。



中浜下水処理場

森之宮キャンパス



<参考>大阪市中浜下水処理場水処理施設整備事業
—膜分離活性汚泥法 (MBR)と高速ろ過施設の導入
出展：大阪市建設局ホームページ

生物多様性への寄与

周辺緑地を踏まえた生態系ネットワーク

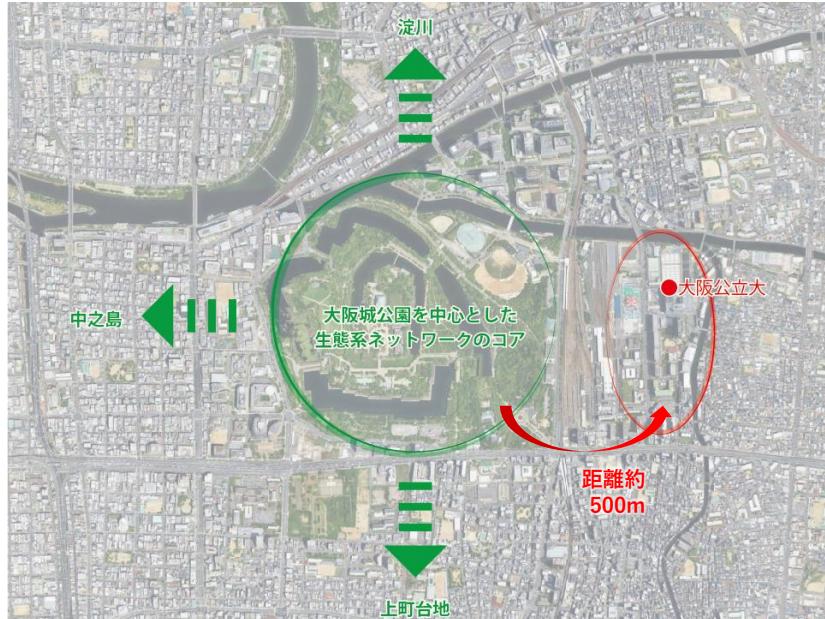
大阪城東部地区は、検車場跡地により、
東方向への連続的な緑地が希薄な敷地

健全な生態系指標の一種である
シジュウカラの行動圏を考慮した
適正な緑地を補完

※シジュウカラは、半径500m内外を生活圏とする。



シジュウカラ



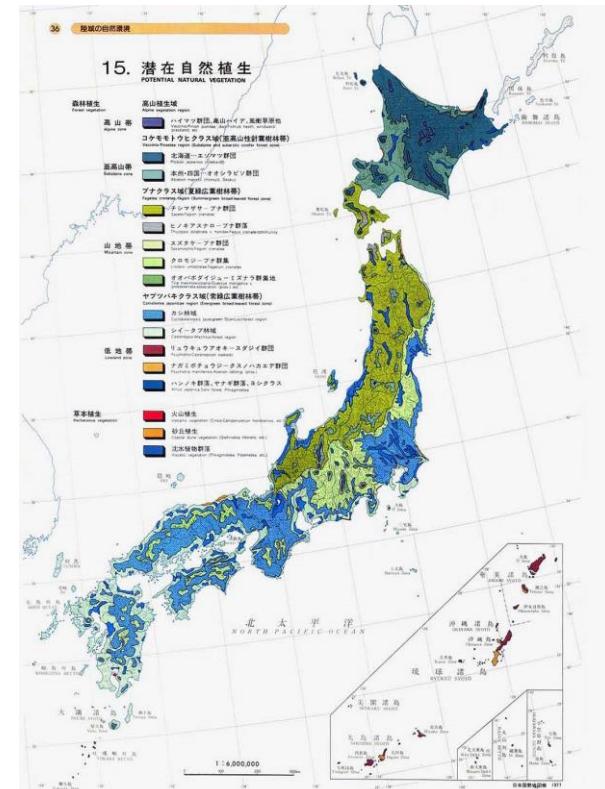
生態系ネットワーク形成に重要な敷地

地域に根差した植栽(潜在自然植生)

その地域の自然環境が安定した状態に戻った場合に、
最終的に定着すると考えられる植生

ヤブツバキクラス域(常緑広葉樹林帯)

シイ・カシなどの照葉樹林を選定



出展：環境省 生物多様性センター

記憶や歴史を継承する植栽

大阪市内の緑地を形成する大阪城公園の四季の移ろいや、
ロゴマークのモチーフに採用される樹木



大阪城公園や大学の記憶
イチョウ・サクラ・ヤシなど



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

イチョウ・サクラ・ヤシをモチーフとした
地域になじむ新たなシンボル



府大のサクラ



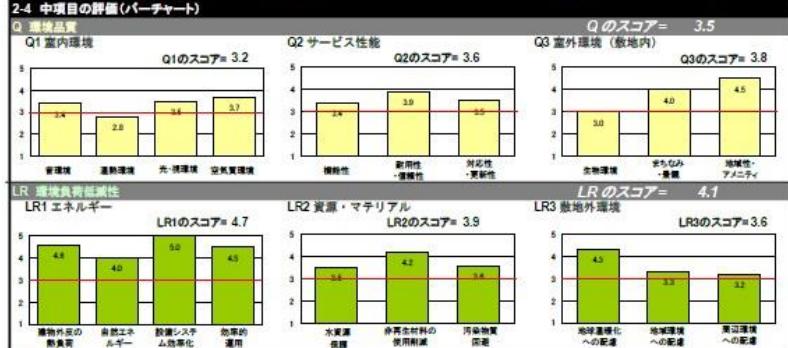
市大のヤシの移植



四季彩豊かな大阪城公園

CASBEE Sランク (BEE 3.0)

CASBEE 建築物総合環境計画概要書 新築



Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
建物外皮の熱貯蔵を前提、JIS規格F5を含むの内装材、CO2監視、敷地内禁煙により良好な室内環境をつくります。また、窓の大きさはT2以上、壁・床・天井のうねりは設計料以下、屋外熱遮蔽率は2%以上、無煙SO2Xを実現。	建物外皮の熱貯蔵を前提、後れから外皮熱能を向上させるため効率器の使用により、建物運用時のエネルギー削減を図ります。	建物外皮の熱貯蔵による、水資源の貯蔵を図ります。リサイクル品目を上回る、基礎層からの高炉セメント使用、躯体にせよとの容易な分別、解体時の資源再利用に配慮、屋根下水処理場の雨水処理水を採用し、熱源循環する。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮の熱貯蔵を前提、後れから外皮熱能を向上させるため効率器の使用により、建物運用時のエネルギー削減を図ります。	建物外皮の熱貯蔵による、水資源の貯蔵を図ります。リサイクル品目を上回る、基礎層からの高炉セメント使用、躯体にせよとの容易な分別、解体時の資源再利用に配慮、屋根下水処理場の雨水処理水を採用し、熱源循環する。	建物外皮のCO2排出量を抑制する。大気汚染防止などの現行の基準に対する対応で大削減。自動車・駐車場に間にて適切な取り組みを行う。ビロディ芋田前に内燃産業材料を使用する。

BELS認証 (ZEB Oriented)



評価結果について
本評価結果は、BELS 評価業務方法書に従って評価を行ったものです。申請された図書により評価したものであり、評価日以降の計画変更や劣化等がないことを保証するものではありません。また建築物に瑕疵がないことを保証するものではありません。



達成項目 ※達成した場合にのみ、チェックマーク✓とZEBマークが表示されます。

ZEB水準
エネルギー消費性能が、事務所等の用途で★5つ、病院等の用途で★4つを達成

ネット・ゼロ・エネルギー ZEB Oriented
ZEB Oriented の要件は評価書の特記項目をご覧ください。

再エネ設備

設備なし	種類	容量
—	—	—

評価情報

評価年月日	2025年6月30日	評価書交付番号	002-02-2025-00108
評価機関名	一般財團法人日本建築センター		
評価員氏名	上久保 学、脇田 茲		

XMLID:
ac41620-ed5e-494c
※1 平成28年基準とは、建築物エネルギー消費性能基準などを定める省令(平成28年経済産業省令、国土交通省令第1号)に基づく基準をいいます。



ありがとうございました

